



赤羽別院報 第46号

発行所 真宗大谷派 赤羽別院 親宣寺
〒444-0427 愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14
Tel・FAX (0563)72-2308
Eメール akabane_betuin@katch.ne.jp

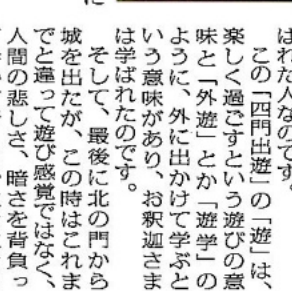
講師プロフィール
天野 義敬 (あまの よしたか)
昭和32 (1957) 年
愛知県生まれ
同朋大学仏教学科卒業
元岡崎教区
児童教化連盟委員長
岡崎市 心城寺住職

はすとお釈迦さま



はすは、汚い泥の中で育ちます。プールのよきにきれいな水の所ではありませぬ。泥でなければダメな泥を栄養として吸い取って咲く、けれども花は泥に似つかずともきれいです。

はすは、汚い泥の中で育ちます。プールのよきにきれいな水の所ではありませぬ。泥でなければダメな泥を栄養として吸い取って咲く、けれども花は泥に似つかずともきれいです。



お釈迦さまは、今のネパール近くの釈迦族の王子に生まれ、大切に育てられて幼少の頃はお城の外に出ることはありませぬ。次にお城の外に興味を持つようになり、王に許可をもらいお城の外に遊びに行きました。

はすの花

今日は報恩講ですからお飾りがいつもと違います。いろいろの違いがありますが、お仏供が大きいですね。大きくて上が平らな形になっていますが、これははすの実を表わしているんです。お内陣や家庭のお内仏の中をよく見ると、いたる処にはすの花が使われております。

鶴亀のローソク立てで、鶴がくわえている軸には上にはすの葉が開いている。その下の三つのはすは、つぼみと実とくると巻いている若い葉です。

お釈迦さまは、嫌いな人嫌いな物でしよう。自分の回りには不要な物なんです。嫌なこと・悲しいこと・苦しいこと・辛いことや煩わしいこと、みんな嫌なんです。

お釈迦さまは、嫌いな人嫌いな物でしよう。自分の回りには不要な物なんです。嫌なこと・悲しいこと・苦しいこと・辛いことや煩わしいこと、みんな嫌なんです。

お釈迦さまは、嫌いな人嫌いな物でしよう。自分の回りには不要な物なんです。嫌なこと・悲しいこと・苦しいこと・辛いことや煩わしいこと、みんな嫌なんです。

お釈迦さま

お釈迦さまは、嫌いな人嫌いな物でしよう。自分の回りには不要な物なんです。嫌なこと・悲しいこと・苦しいこと・辛いことや煩わしいこと、みんな嫌なんです。

お釈迦さまは、嫌いな人嫌いな物でしよう。自分の回りには不要な物なんです。嫌なこと・悲しいこと・苦しいこと・辛いことや煩わしいこと、みんな嫌なんです。

お釈迦さまは、嫌いな人嫌いな物でしよう。自分の回りには不要な物なんです。嫌なこと・悲しいこと・苦しいこと・辛いことや煩わしいこと、みんな嫌なんです。

お釈迦さまは、嫌いな人嫌いな物でしよう。自分の回りには不要な物なんです。嫌なこと・悲しいこと・苦しいこと・辛いことや煩わしいこと、みんな嫌なんです。

嫌いな人

嫌いな人嫌いな物でしよう。自分の回りには不要な物なんです。嫌なこと・悲しいこと・苦しいこと・辛いことや煩わしいこと、みんな嫌なんです。

嫌いな人嫌いな物でしよう。自分の回りには不要な物なんです。嫌なこと・悲しいこと・苦しいこと・辛いことや煩わしいこと、みんな嫌なんです。

嫌いな人嫌いな物でしよう。自分の回りには不要な物なんです。嫌なこと・悲しいこと・苦しいこと・辛いことや煩わしいこと、みんな嫌なんです。

嫌いな人嫌いな物でしよう。自分の回りには不要な物なんです。嫌なこと・悲しいこと・苦しいこと・辛いことや煩わしいこと、みんな嫌なんです。



お釈迦さまは、嫌いな人嫌いな物でしよう。自分の回りには不要な物なんです。嫌なこと・悲しいこと・苦しいこと・辛いことや煩わしいこと、みんな嫌なんです。



お釈迦さまは、嫌いな人嫌いな物でしよう。自分の回りには不要な物なんです。嫌なこと・悲しいこと・苦しいこと・辛いことや煩わしいこと、みんな嫌なんです。

別院行事のご案内

- 4月11日 (月) 午前11時 本山鎌役によりお剃刀を受けます。
4月11日 (月) 午後1時 法話 第8組 安樂寺 伊奈 恵祐師
4月14日 (木) 6月24日 (金) 各午前9時30分
未来へつなげる寺院をより確かなものに。本山宗務所と岡崎教区が実践する勉強会
6月6日 (月) 午後1時 本山鎌役御参修
法話 東京教区 顯真寺 近田 昭夫師
※午前11時30分 殉教記念碑前法要・美町
7月15日 (金) 午後1時30分 法話 第8組 福正寺 本多 友明師

第三回赤羽御坊俳句会

- 4月13日 (水) 第14組 西光寺 清澤 晋師
4月28日 (木) 同 光専寺 加藤要子師
5月13日 (金) 第8組 福縁寺 城田慶雄師
5月28日 (土) 同 福正寺 本多友明師
6月13日 (月) 第9組 福東寺 木村圭師
6月28日 (火) 同 通因寺 大谷肇師
次に赤羽御坊俳句会を開催します。
日時 平成28年4月18日 (月)
午前10時受付・正午締切
場所 赤羽別院 (一色高校となり)
投句 一人・当期雑詠
選評 一五五句による互選
講評 白桃・齋藤明笛先生
会費 三〇〇円
その他 昼食は各自でご用意下さい。
顕彰 上位15名に記念品を贈り
赤羽御坊新聞第47号に掲載

お世話方さんを探しています!

男性・女性 若干名
どなたかお手伝いいただけませんか?
自薦・他薦歓迎 詳しいことは赤羽別院
電話 〇五六一七二一三〇八まで

第1回真宗講座 廣瀬惺師の『御文』に学ぶ



熱心な聴聞者で満堂

去る1月28日、当別院に於いて、赤羽地域教化センターが主催する真宗講座が開かれた。本講座は、毎年多くの方々に親しみのあるお話をテーマとして開催されているもので、教化センター発足後、池田勇講師(現同朋大学名誉教授)による「報恩講和讃」が全六回、次いで古田和弘師(現大谷大学名誉教授)による「正信偈」が昨年まで全九回にわたって開かれてきた。

今年はあらたに「御文」に学ぶというテーマのもと、同朋大学特任教授の廣瀬惺師をお招きして、蓮如上人の『御文』についてお話をいただくこととなった。

全三回のうち第一回目となるこの日、廣瀬師は「蓮如上人と真宗再興」という講題をもたれ、前半は、法然上人・親鸞上人・蓮如上人が伝えてくださった「本願念仏の教え」についてお話をされた。

後半は、その教えをより広く伝えようとした、蓮如上人という人物がどのようなお方であったのか、お聖教のお言葉や当時の時代背景等を交えて説明され、『御文』が書かれるに至るまでのことをお話しされた。

日々のお勤めで拝読する『御文』は真宗信徒にとってもたいへん馴染みのあるお聖教であり、当日はその意を確かめようと訪れた方々が、真剣な表情で聴聞される姿が印象的な講座であった。

堀田護師を迎えて 赤羽ブロック坊守学習会

毎年恒例の赤羽ブロック坊守学習会が、2月26日、第7組本宗寺住職・堀田護師をお招きして開催された。

師のテーマ「ひとになる」の「ひと」とは、どのような人か、興味深かった。

講義は、親鸞聖人の御消息集のなかの「世のなか安穩たれ、仏法ひろまれ」をどのように捉え、如何に受け止めて生活したらよいかを具体的な例をあげて話された。

小学5年生の児童がお寺に見学に来た時「仏様に合掌しましょう」と言ったら「合掌」と受け取り、騒いだとのこと



で、仏さまの前で手を合わせることができず戸惑い顔になったそうです。これは家庭で教えられておらず、その姿を見るのができないからです。

「ひとになる」とは、伝承、即ち、相続です。このことを忘れないうにしたいものです。

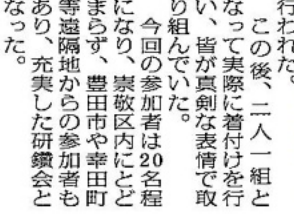
装束作法研鑽会開催

平成27年度、赤羽別院教化事業の一環である、装束作法研鑽会が、去る2月9日、第8組宿禰寺・織田頭護師をお招きして開催された。

今回は、釋儀をテーマに、七條装束の着付け、袴の取り扱いについて行われた。

まず、修多羅を七條装束に結びつけることから始まり、次に七條装束右脇下部を、三本の腰で綺麗にまとめる作法を学び、これによって後姿はとて美しいものとなった。

修多羅の左肩にかかる結び目(エビと言われている部位)については、結びを解き正式な方法で



この後、二人一組となって実際に着付けを行い、皆が真剣な表情で取り組んでいた。

今回の参加者は20名程になり、宗教区内にとどまらず、豊田市や幸田町等遠隔地からの参加者もあり、充実した研鑽会となった。

「お寺の元氣塾」に参加して

第10組・香殿寺 鈴木土平



未来の住職塾塾長・松本講師

真宗寺院の将来に不安を抱く人が多いなかで、未来につながる寺院を確かなものにするため、岡崎教区では本山と共催で「お寺の元氣塾・ウェイクアップセミナー」を開催している。

このセミナーは、お寺を元気にするために、これからのお寺の百年を開く「未来の住職塾」を、宗派を超えて展開する一般社団法人「お寺の未来」(井出悦郎代表理事)と共催で企画実施された。

普段聞き慣れない経営学の横文字に苦戦しつつも、お寺はどうあるべきか?何を求められているか意見を出し合い、お寺の使命・目標・行動や環境整備等に関する紙面に記して発表された。

この寺院において、真宗・お寺の原点に立ち降り、共に研鑽し、共に歩んでいくうえで、これ迄にない有意義なセミナーとなった。

ハクビシン 捕獲される

辺りが暗くなると、別院の庫裡や書院の天井裏を賑わしていた動物が御用となった。

なんと、体調が50センチもあるうさぎというハクビシンで、借用した籠に好物のミカンを置いたところ、2日目の2月15日に見事捕獲された。珍客御用の一幕でした。



赤羽別院の歴史 その5

三河地震前の赤羽別院

文政5(一八二四)年の庫裡・同6年の鐘楼についで、同7年には本堂が完成し、赤羽別院本目山親宣寺の荘厳な寺容が整った。

住職は本願寺20世・蓮如上人で、御本尊は御繪像であったと伝えられており、落慶法要の詳細については記録が消失して不明である。

この折の梵鐘には「三河國幡頭郡吉良之庄赤羽御坊大谷本願寺二十世現住職大僧正連如大和尚」とその銘が記されていた。

熱心な西三河南部の真宗門徒の心の拠り所である赤羽別院の再建がなり、朝夕には地元はもとより近隣の人々が参拝に訪れ、仏の慈悲を戴き人々のふれあいの場となった。また、遠方より三河に訪れた人達は「三河に来たら赤羽の御坊さんにお参りしなくては」とその



現在の一色高校側からの景観

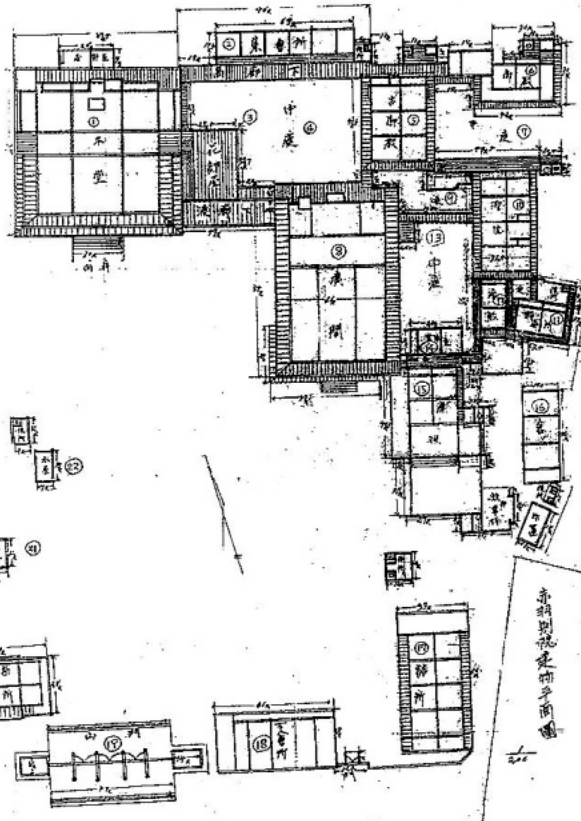
- | 名 | 所 |
|--------|----|
| 1 堂 | 本所 |
| 2 集会所 | 本所 |
| 3 花中 | 本所 |
| 4 古御殿 | 本所 |
| 5 南中 | 本所 |
| 6 大広間 | 本所 |
| 7 中庭 | 本所 |
| 8 聖所 | 本所 |
| 9 番所 | 本所 |
| 10 輪座 | 本所 |
| 11 中事務 | 本所 |
| 12 庫 | 本所 |
| 13 舎 | 本所 |
| 14 所 | 本所 |
| 15 門 | 本所 |
| 16 楼 | 本所 |
| 17 鼓 | 本所 |
| 18 女山 | 本所 |
| 19 太 | 本所 |
| 20 鐘 | 本所 |
| 21 水 | 本所 |
| 22 | 本所 |

足を伸ばした。月日が経つにしたがって参拝者の数は増し、法要が勤まる日には参拝の人々で境内が混雑する程の賑わいを見た。このようにして、三河地方の真宗門徒の絶大な支持を受けた。

けた赤羽別院は、文久から正時代にかけて大広間を施して、併せて22の諸堂は、施設が造営され、広大な境内に広葉樹が生い茂る空間に大伽藍を誇る、東本願寺の別院に相応しい壮大な景観を醸し出していたのである。

本堂の内陣のご本尊阿彌陀如来像はいつでも参拝・拜謁することができ、正面の欄間にはハスの花を手を舞う天女の姿が彫り出され、幸せな縁にあずかることのできる静かな御堂であった。

時代は移り変わり、二六五年続いた徳川幕府の大政奉還により誕生した、明治新政府の近代化の幕開きに合わせ、仏教界は苦難の時を迎えることとなった。



震災前の赤羽別院建物平面図

岡崎教区教化委員会学習会 真宗本廟奉仕を実施

立春まじかの2月2日・3日、岡崎教区教化委員会と四別院地域教化センターのスタッフ32名が京都・東本願寺に集結した。

今回は、教化委員会の学習会の一環としての上山であり、教区の基幹施設「真宗基礎講座」の取り組みについての協議と課題の共有を図ることを目的としたものである。

午前11時、修復工事完了間近の阿彌陀堂へ通って同朋会館に入り、結成式の後日程に従い、協議・座談を重ねた。その後、昼食をはさみ日程に従い、協議・座談を重ねた。まず教区の施設と地域教化センターの歩みについての発題がなされ、活動状況の説明と質疑が交わされた。

また、推進員養成についての厳しい質問が投げかけられるなど活発な発言が相次いだ。その後の別院座談会でも個々の実践や宗教を取り巻く課題などの議論でヒートアップし、夜遅くまで語り合った。



御影堂の床ふき

学習会に参加して

第9組・福泉寺 木村 斉



学習会のようす

岡崎教区教化委員会が実施する学習会が、去る2月2・3日の両日、京都・東本願寺において開催されました。教務所・教区教化委員会及び各別院教化センターから32名が参加し、各々の組織の現状報告に続いて、今後の展開について協議が行われました。それぞれの立場から、様々な意見が活発に交わされた学習会となり、その中で主たる問題点として、教区と各地域の連携や情報交換、共有が不十分である事、及び地域特性により同種事業の実施が困難である事を認識するに至りました。

これらの問題の解決策として、組織間の相互連絡を密にする体制を確立し、より効果的な事業内容とし、地域単独では取組み難いものについては、教区が中心となって推進する事が望まれる趣旨の発言がありました。

現在実施している事業については、何れもその効果が認められるものと思われ、今後においても継続して取組み、教化・伝道に精励してまいることが確認されました。



再生されたローソク



寝不足のまま迎えた2日目はさわやかな歌声で目覚めた。2月の御影堂は寒く、曇朝参拝では体が震えて、おつとめに力が入らない。しかし、宗祖はやさしく迎えて下さる。同朋会館の廊下に掲示してある法語が頭をよぎる。「宗祖は過去の人ではなく、私を待つ未来の人である」と。最後の全体協議会では、各班から出された意見を手がかりとして、組織の明文化、人材の育成など、今後の課題を共有することを確かめ合い、1泊2日の日程を終えた。

寺院や葬儀場等で使用済の残蠟が、綺麗なキャンドルに生まれ変わる！岡崎市に事業所をおく、株式会社ビュア・ハートが第9組源徳寺と協力して、残蠟のリサイクル事業の取組みを行っている。

あちこちから集められた残蠟は、鍋で加熱して溶解され、細かく砕いたクレヨン混せて着色される。その後、型に流し込んで形成され、仕上げに花びらや各種の装飾が施される。このようにして完成したキャンドルは、福祉施設や

即売会等で販売され、各地で再び灯をともされる。同社は障がいをもった人が自立した社会生活を営むよう就労支援しており、キャンドル制作はその一環で、デザイン・製作・製品の運搬から販売まで、一貫して支援を受けている方々が、リサイクル資源の残蠟は常時同社が回収を行っているが、源徳寺に持ち込まれるも差し支えないとのこと。住職の藤原知真師は、残蠟回収のお手伝いをいただける寺の仲間が増えることを願っていると話された。詳細は次のいずれかに

電話 090-1415-6947
電話 0564-54-5733
(株)ビュア・ハート

第10回を迎えた 西尾教会の子ども報恩講

第11組 若院会

西尾教会(恵保育園)では昨年12月18日、全園児が出席して、10回目となる子供報恩講が厳修されました。第11組若院会では、本願寺派の若院会と一緒に、毎月一回の勉強会を実施しており、今回の報恩講はその学習活動の一環として東西合同で厳修しました。

子ども達の代表による親鸞聖人像への供灯・供華を、ぎこちない動きではあるが真剣な面持ちで終え、お互いに見せる笑顔はとてほほは笑ましかった。

お寺さんの講声による同朋奉讃のお勧めも、これまでに重ねてきたおさらばの成果が充分に発揮され、恩徳讃の斉唱もとても美しく歌えました。



この後は、児童連盟のお兄さんやお姉さんたちと、大はしゃぎしながらのゲームをしたり、人形劇を観て楽しいひと時を過ごしました。最後に、おさがどうの菓子を手に「ありがたうございませう」のあいさつも全員がしっかりとできました。

残蠟をリサイクル 花香るキャンドルに

第9組 源徳寺



東海連区教会 赤羽別院で開催

東海連区(高山・大垣・岐阜・岡崎・名古屋・三重)の教区会正副議長会が2月8日、赤羽別院を会所として開催された。

会議に先立ち、三浦輪香より当別院の沿革と地域教化センターの位置づけ及びその取り組みについての説明が行われた。

その後、岡崎教区会議長大原雅幸氏の司会により、かねてより課題となっていた教区改編についての協議にはじまり、真宗教化センター・ウェイクアップセミナーや財政改革等について熱心な話し合いが行われた。

最後に、今の時代に鑑み、今後宗門・各寺院が生きていくためには、念仏者を生んでいく方法が一番に考えていかなければならないと締められた。



会議の様子

恵保育園の子ども報恩講でのワン・カット。口を大きく開き、大きな声で同朋奉讃のお勧めをする、園児の姿がとて印象的でした。

ナイス・ショット!

法衣 / 袈裟 / 打敷 / 念珠 / 幕 / 記念品

京 合資会社 縫源法衣店
真宗大谷派 法衣・御稚児衣裳

〒460-0015 名古屋市中区大井町1-39
TEL (052) 321-4965
FAX (052) 323-9559

西三河に8店舗
海鮮せんべい専門店

志

ご法要・仏壇の
お供えに

手作 工房 えびせん家族

お問合せ先: スギ製菓株式会社
直販本部 TEL 0566-42-6112

鶴見鬼師を招いて 女性聞法会

第13組 教化委員会

現在、宗門・教区では女性の登用を主眼に、教化事業等への積極的参画を推進している。

第13組では、昨年に引き続き、女性を対象として、仏法に親しむを感じ気軽にお寺に足を運んでいただくことを願うとする「女性聞法会」を開催した。

昨年12月20日、会場の長壽寺には大勢の聴聞者が集い、真宗大谷派教学研究所・鶴見鬼師の講話「浄土と自分」に耳を傾けた。

師は、自己の生き方と照らし合わせて、本心に浄土に生まれたいと願っているのか? 欲望を満たすことができても決して満足しない人間のわがままを列に、人間の幸せについて話された。また、お釈迦さまが覚られた「老病死」を超える仏道とは、苦しみの中から課題が見えてくること話された。

改めて、宗祖や先達に学ぶことの大切さや、日頃の生活態度が問われる法座となり、今後も継続が望まれる聞法会であった。



創業100年

西尾心月ホール

心月ホール 北館

ISO9001 認証取得 西尾市住崎5丁目90番地

澤村 本館 0563(59)6111
本店 0563(57)2733
手町店 0563(59)6876
FAX

問い合わせは 0120-19-6111
「心月の会」会員募集中

初鐘

穏やかな天候に恵まれた大晦日から元旦にかけて、赤羽別院には大勢の人々が参拝に訪れ、鐘楼でそれぞれ思いを込め除夜の鐘・初鐘の撞木の綱を引いた。

若いお父さんやお母さんが、子どもと力を合わせて鐘を撞くほほえましい光景が数多く見受けられた。

堂内ではお互いに新年の挨拶を交しながら、振舞わ親子で鐘撞き



れた甘酒やぜんざいに舌鼓し、おかわりをする人もあり、おさがりのみかんと菓子を手にした子ども達には美しい笑顔があつた。

家族連れとあつた。若者グループの姿が数多く見受けられた事が特筆される。

修正会

厳かな初鐘の音とともに迎える元旦早々、御本尊前において、和讃を初讀一弥陀成仏のこのかたはに、御文は一帖目一通一人いわくに戻して厳修されるのが修正会である。

これまで、赤羽別院では夜明けを待って午前7時から厳修されてきたが、本年は初鐘の音が絶えた午前1時よりお勤めされ、輪番・



三浦輪番の法話

三浦真教師より法話を戴き、おさがりには縁起物の紅白の餅(餡子がいっぱい)が振舞われた。

双全講

去る1月15日、百三十年余の永い歴史と伝統を誇る双全講が、法話講師に第19組勝賢寺・野々山祥寛師をお招きしてお勤めされた。

双全講は、地域のご門徒宅



野々山師の法話

を御引上げお参りした後、追申会と併せ、別院をお慰仏の会所としてお勤めする法座である。

明治18年に真宗の教えと赤羽別院を大切にしていこうと、地元をはじめ多くの方々により篤志したものであるが、昨今では参拝者の減少が著しく、遺憾ながら今後の継続が危ぶまれる状況下におかれている。

浜の三ヶ寺 恩任寺を訪ねる

大浜街道を横切って、寺町の風情を感じさせる参道を西に進むと、両側に築地塀を擁し、軒下に獅子の彫刻を施した山門前にたどり着く。高浜市青木町の恩任寺である。

同市の専修坊並びに碧南市の西万寺と合わせ「浜の三ヶ寺」と呼ばれる名刹に第17世・前住職石川昭師を訪ねた。

真冬とは思えない穏やかな日差し。1月27日、軒先丸瓦の鬼面と、扉の鬼瓦の数珠掛、鬼面が覗みをきかす山門を渡り、広々とした境内に配された本堂をはじめとして、庫裡・書院・屋根に露盤を乗せた太鼓樓等々、その威容に圧倒される。

石川山・恩任寺(現住職・第18世石川理師)の往昔は、天台宗の西湖山・童現寺で、現在地よりも北方(字北山)にあったが、建武の頃(一一三三〇年代)に起った「鴨ヶ橋の合戦」により、伽藍は兵火により灰燼に帰したと伝えられて



いるが、その開基・創建については不明である。後の世との前にあつたが諸般の事情により二十年程前に撤去された。

恩任寺は、今を去ること二六〇年程前に、菅原一族より、当時九歳であった観嶺を養子に迎えた。

その際にもたらされた「菅原道真公の木造座像」が今に伝えられている。

また、多大な持参金により、記念として現在の山門が造営され、最高の樺材が惜しみなく使われ、太鼓樓もこの時に建てられたという。

観嶺は、宝暦13(一七六三)年十六歳で辞世したが、山門の正面扉には寺紋「徳林戸」と異なる、菅原家紋である「梅鉢」が使われているのはこの由縁である。

寺には、数々の法宝物が受け継がれており、この日に特別に拝観させていただいた座敷机程の巨大なサイズの一六字名号軸「は親鸞聖人の花押」があり特筆に値する。

その他にも、聖徳太子筆と伝えられる「相紙金泥阿弥陀經」、道如上人筆の「紙本」等々が伝承されている。

御本尊「木造阿弥陀如来立像」は、平安後期(藤原氏の時代)作とされ、市の指定有形文化財となっている。

整然と手入れの行き届いた境内を話題にする時、「大勢の皆さんの格別のご配慮によるものである」と感謝しています。

と至って控え目に話される老僧のお言葉に、寺と門徒の絆の固さを感じた。



お寺の保存樹木

西尾市指定・保存樹木
明榮寺のイヌマキ
イチョウ

西尾市一色町大塚七反1
第13組・明榮寺境内
指定・平成26年11月

イヌマキ	根回り	二・三米
	胸高囲	一・八米
	樹高	八・〇米
	樹齡	不明
イチョウ	根回り	他1本
	胸高囲	三・八米
	樹高	二・二米
	樹齡	一〇〇米
		不明



第13回 御坊縁・川柳

俳句 (順不同) 選者 三浦 貞葉氏他

別院に 真宗講座 春隣り
豆を踏み 豆に座りて 豆を撒く
雲雀野を 真つすぐに 来る 郵便車
初観音 辺り畑に来る 大香炉
ボインセチア 鉢部屋を 明るうす
引上や 助音の子らの 得意顔
百年の 古木なれど 梅真白
上弦の 月芽え湧えと 通夜果つる
鈴重ね 温顔揃ふ 報恩講
縁側は ひとつの極楽 日向ぼこ

川柳 (順不同)

有り難や 痺れがきれる長い経
年明けて 喧嘩も敬語 松の内
空の青 独り占めて 子は育つ
お知らせ 次回は上面にご案内のとおり
赤羽御坊俳句会のため中止となります。

水頭うた子
連沼たけし
加藤 久子
古賀 敦子
近藤 貞子
藤原 寛
石川 松葉
林 邦子
近藤 芳正
齊藤 浩美
佐藤 哲也
大浜 美恵
鈴木 幹

人事

◆平成28年1月15日付
教化センター・総務
退任 島山 貴利師
第9組・精立寺衆徒

◆退任のごとは
このたび、一身上の都合により、センター総務の任を辞することとなりました。
短い間でしたが、大変お世話になりました。
短い間でしたが、大変お世話になりました。
ありがとうございます。

訃報

◆伊奈 夕美子様
第8組・安樂寺前坊守
平成28年1月17日御命終
享年 96歳

◆百齋 きみ系様
第8組・來空寺前坊守
平成28年2月17日御命終
享年 百歳

◆木村 千里様
第9組・福泉寺前坊守
平成28年2月23日御命終
享年 87歳

お寺の掲示板

人間に生まれた者は
必ず深いいのちの
願いを持っている
第十四組 東正寺

◆赤羽御坊新聞懇志
第10組 嚴西寺同行中様
第8組 安樂寺様
第14組 精界寺様
第14組 西光寺同行会様

◆赤羽御坊「新聞は三ヶ月に一度の季刊新聞です。別院や崇敬区域の寺院で営まれる、各種の法要・行事等の予定を掲載し、いかに五ヶ月先を見ていかねばなりません。広報部スタッフは各組より選任されていますが、組及び各々のお寺の動きを、早く・正確に把握することは困難なのが現状です。広報部では、法要・行事等の予定を提供・案内することは、とても大切なことと考えています。

崇敬区域のみならず広く聞法の場を公開し、親鸞聖人の教えを一人でも多くの人に聞いて戴くことを願うとともに、寺が開かれた念仏道場になることを切に願うところであります。

「昨年より各組の「夏の勉強会」と題し、夏期講座を予告掲載したところ、組においては新しい人の顔がみられたとお言葉も頂いております。ありがたいことです。是非、何時・何処であんなこと、こんなことという情報をお寄せ下さい。連絡先は御坊新聞タイトル下に記載してあります。お待ちしております。